

第8回

私と大詫間

～大詫間への想い 思い出等について～

地域の方から大詫間への想いや
小さい頃の思い出などをお寄せ
いただく
『私と大詫間』シリーズです。

私と大詫間

実家の手伝いで諸富町から自転車で大詫間に向かいます。1月末ふと思い立ち島の外周を1時間20分かけて回りました。三角州の地形と緑の絨毯、競って漁場に向かう海苔船のエンジン音に、向かい風何する者ぞと励まされてのサイクリングでした。

ある日の新聞で「大詫間の歴史をたどる」という本の紹介が目飛び込んできました。実家から相談してもらい小冊子を頂きました。

思い起こすと、夏には海路端の100馬力から溢れ出る農業用水を利用し、水路には竹組みの泳ぎ場が作られました。岸の外は流れが速くスリル満点でした。近くの松枝神社はさしずめ地域の子供たちの縦割り学級の運動場。面倒見の良い先輩たちとの三角ベースが楽しみでした。今は広大な干拓も当時は埋め立て途中で、渦の水路では「はしくい」が入れ食い状態。友達の中には釣り針でムツゴロウを掛け釣りする名人もいました。

実家の仕事の帰りは大野島の堤防沿いを帰りますが、野球少年の元気な挨拶。陰悪？な関係だった昔とは大違いです。今は県境を越えて大詫間と大野島の活性化のため、子どもや大人の交流もたけなわとのこと。

心豊かで笑顔溢れる大詫間の一層の発展を祈念します。



第8回目は…田原 久巳 さん
諸富町在住(大1区出身)

熱中症予防×コロナ感染防止で 7月8日 公民館主催 新しい生活様式を健康に！ いきいき楽しもう会第4回

おたっしや本舗川副から「熱中症予防×コロナ感染防止で新しい生活様式を健康に！」のテーマでお話頂きました。

今、一番注意したいのがマスク着用により熱中症のリスクが高くなることだそうです。

マスク着用時は、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給をしましょうとお話されました。



再発見！ 7月15日 公民館主催 佐賀・大詫間のよかところ 成人学級第4回

市建築指導課景観係から佐賀市景観賞の説明と歴代の受賞した景観を紹介していただきました。佐賀市の魅力を改めて学びながら大詫間の良い所を振り返りました。グループワークで大詫間の見どころを話し合い、ふせん紙に書いて地図に貼り付け、オリジナルの「大詫間景観マップ」が出来上がりました。充実した内容だったと好評でした。



館長コラム

自宅の南側の水路は、カメ、カメ、カメだらけ。カメが我が家の畑に上陸し、あちらこちらに穴を掘り卵を産みます。さしずめ我が家はカメ屋敷化しています。ヘビをはじめ爬虫類は苦手、カメさんには申し訳ないのですがあの姿と顔立ちはどうしても友達になれません。このカメ、元々はペットとして普及したミドリガメで1960年ごろから輸入され始め、多い時で1年に100万匹も輸入されていたそうです。いわゆる外来種です。ペットとして日本中に普及しましたが、捨てられたり、逃げだしたりして、日本中に繁殖しました。大詫間の人口が約1,500人、カメの数はそれを上回るかもしれません。

環境への順応が高く、しかも雑食で繁殖力も強く、日本固有のカメがいなくなる恐れもあり、大きな問題になっています。しかし、特定外来種に指定されていないため飼育等の規制がありませんでしたが、やっと指定に向けて動き出したようです。外来種はやっかい者扱いされていますが、本来は外来種そのものに罪があるわけではなく、それを持ち込んだ人間が問題であり、身勝手に捨てたりしたことが生態系や環境の破壊につながっていると思います。一人ひとりがこのことを深刻に考え、行動することが大切ではないでしょうか。

